

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティングにて、勤務職員が施設理念を唱和し意識づけをしながら、地域に根ざしたサービス提供に努めている。	毎朝ミーティング時に唱和を行い、その理念の意義を確認しています。事業所名である「四季」をどのようにご利用者に感じていただくか考え、実践しています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月、地域のボランティアによる音楽療法を実施している。また、町内の回覧板に広報誌を回覧していただいております。週3回買い物などに出かけては、地域の人達と挨拶を交わしたり会話をしている。	毎月の音楽療法の実施、町内の賽の神への参加、年4回広報誌を作成し回覧板で回覧するなど町内とのつながりを深めています。	今後は、園児及び児童との交流を積極的に実施し、ご利用者の活力の1つになれることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学・実習など、積極的に受け入れを行っている。地域への啓発活動は、外部研修を重ね知識の蓄積の上での実施を進めている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期の事業報告とともに要望・意見・指摘を受けながら、今後の取り組みについての意見交換を行いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1回実施しており、ご家族代表・自治会長・包括支援センター職員・町内会長に参加していただいております。積極的な意見がでており、課題に対しては職員全員で確認し、対応しています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に毎回連絡し、随時参加との回答を頂いている。地域包括支援センター職員には、毎回参加頂きながら、意見・アドバイスを頂き連携を深めている。	市の職員・包括支援センターの職員にはいつでも意見・相談をさせていただき、サービスの向上につなげている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する法人内研修会に参加し、職員の共通認識を図るとともに、安全面に配慮して自由な暮らしを支えるよう努めている。	現在は身体拘束を行っていませんが、内部で、実例を基にした研修を全職員で実施しています。今後も身体拘束についての研修を定期的に行い理解を深めようと考えています。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する、市主催の研修会・法人内研修会に積極的に参加し、事業所内伝達講習会などを実施しながら、理解浸透・遵守に向けた取り組みを行っている。	所長が作成した接遇マニュアルを使いご利用者との接し方、話し方、あいさつの仕方などを写真で掲載し、虐待防止の理解と実施に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、一人のご利用者が成年後見制度を利用されている。引き続き、社会福祉協議会などが主催の研修会に参加し、内部研修を通じ職員の理解を深めていきたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ケア方針・退所時などの対応について説明を行っている。入院・状態変化により継続対応困難が予測される場合、連携施設への入所へつなげるなど、その後の対応方針も含めて納得を得られるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関脇に、ご意見・ご提案カードを設置するとともに、面会時には、日常の状況報告を兼ね苦情・要望を言える雰囲気作りに留意している。頂いた貴重な意見は、サービスに反映させるよう努めている。	ご家族から意見が言えるような雰囲気作りができるように努めています。頂いた意見に対しては会議の場で話し合い、サービスに反映させています。	今後は定期的に家族アンケートを配布し、今後のサービスの向上に役立てることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員の意見を把握しきれていないが、月1回の全体会議・適宜個別面談を実施し、意見・要望を聞き反映できるよう努めている。	月1回、所長と職員との意見交換を行っています。でてきた意見に対しては職場に反映するように努めています。	より一層全職員での研修会への参加、及びユニット毎などの職員間での意見・要望を検討する機会を持つことを期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間休日126日に加え今年度より時間単位年休を2時間単位で取得できるとしている。また、適宜個別面談を実施し意向を把握しながら労働環境づくりに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月実施される法人内(複合施設)研修会や外部研修に積極的に参加している。また、全体会議で研修報告を行うとともに、それらを閲覧できるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職能団体への積極的参加や他グループホームへの見学・研修受け入れを通じて、他事業所の意見や事例などを日常のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当の介護支援専門員からの情報収集とともに出来る限り何度か、ご利用者との面談を行いながら、不安のない受け入れに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望・不安を受け止め、ご家族の協力も頂けるよう働きかけながら、事業所としての対応など事前に話し合いをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じ可能な限り柔軟な対応を行い、担当の介護支援専門員へつなげるとともに法人内複合施設や他事業所サービス利用への提案を行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の事・今の事・これからの事をゆっくり話し合える時間を大切に、暮らしの中で、共に支えあえる関係づくりに留意している。		
19	(7-2)	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回、担当職員よりご本人の日頃の様子を報告させて頂いている。来訪時には、ご本人とご家族の架け橋になれるよう心掛けている。	ご家族が面会に来られた時に、ご家族と外食や外出することも多いです。忘年会では蕎麦打ちをご家族と一緒にいたり、職員とご家族お互いがご利用者を支えあう立場となり協力しています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人などの来訪時には、居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。個別外出は、ご家族の協力のもと行われているが、日常は、ドライブなどの集団外出が少なくない。	近所の方もお茶飲みに来たり、買い物の時に知り合いに会うと会話をしたりしています。担当職員が交代する時はフェイスシートを使いご利用者の情報の確認をおこなっています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、自由に居室を行き来し、職員は、お一人お一人に声を掛け、ご利用者の生活リズムに合わせながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や法人内複合施設に移られた際、サービス状況・ケアプランなどの情報提供を行い、時折、訪問をすることで、連携を図っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、希望や意向の把握に努めている。言葉だけではなく、表情や行動などから意向を汲み取るようにしている。	センター方式を利用しご利用者の思いや意向を記入しています。また、日々のかかわりの中でご利用者の言葉や表情の変化を観察し、その把握に努めています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から情報を得ている。日々の関わりの中での小さな情報を積み重ねることにより、これまでの生活についての把握に努めている。	ご利用者をはじめ、そのご家族の力を借りながら新しい情報を収集し、随時フェイスシートへ記入し把握に努めています。その情報は連絡ノートで職員とご家族で共有しています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送りで、ご利用者の状況について確認している。一人ひとりの生活のリズムを把握する為に、気付いた点があれば、記録に残し、職員間で情報が共有できるようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には日々のかかわりの中から意見を聞くようにしている。家族からも面会時や、電話にて意向を確認している。また、会議の中で職員全体での意見交換を行い、介護計画に反映している。	半年に1回ケアプランの見直しを行っています。また、毎月のユニット会議で職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っています。	ご家族との話し合いが少ないようです。今後はさらにご家族から参加をいただき、より良い介護計画ができることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に、ご本人の様子や言葉などの記載し、いつでも職員が確認できるようにし、情報の共有を行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	原則的には医療機関への受診はご家族で対応していただいているが、緊急時、またはご本人、ご家族の希望に応じ、職員で受診の付き添いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地域包括支援センター、町内会の方から参加していただくことで、情報収集を行っている。また、市事業による紙おむつ支給券や寝具丸洗い乾燥サービスなどを活用している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医や希望の病院に受診している。基本的には家族で受診の対応を行っているが、必要に応じ、職員で対応している。	ご本人希望のかかりつけ医となっています。基本的にはご家族同行の受診であり、往診も対応できています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況の変化を見逃さないよう早期発見に取り組んでいる。変調に気づいた際は、看護師に報告し、主治医や適切な医療につなげている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ必要な情報提供を行っている。入院中には定期的に病院へ行き、病院関係者と情報交換を行い、家族とも連絡を取り合うようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を随時確認しながら、医療機関との連携を図り対応している。	重度化した場合や終末期にはいつでも主治医やご家族へ連絡を取れるしくみになっています。また、入所時には重度化や終末期の話し合いをご本人やご家族の意向を大切に決定しています。	入所時に終末期の意向や重度化の話し合いをより具体的に行い、その方針の統一を図り、また、段階的に話し合いを繰り返されることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接の複合施設の勉強会に積極的に参加し、急変時の対応を学習できるようにしている。	隣接の複合施設での研修会に参加し、対応方法等を身につけています。	全職員の参加と理解ができることを期待します。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の複合施設との連携のもと、消防署の指導を受けながら年2回ご利用者とともに避難訓練を行っている。また、町内の方々への災害時の協力呼びかけや安全確保のための環境整備を進めているところである。	防災委員会を設置し、消防署による避難訓練及び災害対策指導をそれぞれ年に1回受けています。また夜間想定訓練も実施しています。	地域との災害訓練を積極的に行い、地域の方々からのいざという時に協力していただける仕組み作りと、地震を想定した災害訓練も行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重する気持ちを持ち、プライバシーを損なわないような声掛けを心がけている。	ご利用者を傷つけないように言葉かけには充分注意をしています。また、個別対応ケアを常に心がけご利用者と接しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側で決めるのではなく、自己決定できる場面を作るようにしている。利用者に合わせ、複数の選択肢を提案し、決定していただくこともある。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースを大切に、本人の希望を聞きながら、過ごしていただいている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望があった際には、訪問美容の方から来ていただき、希望に応じて、毛染めも行っている。また、着替える際に、洋服をご自分で選べる方には選んでいただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けは、利用者のそれぞれ出来ることを職員と共に行っている。食事の時間は職員と利用者が同じテーブルを囲み、同じ物を食べ、食事の内容や食材の話題を提供し、楽しく食事ができるような声掛けを行っている。	食事の前にはお口の体操を行い、おいしく楽しく食事が出来るようにしています。献立は管理栄養士のアドバイスのもと作成しており、ご利用者の希望メニューも取り入れることがあります。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に食事摂取量を確認している。栄養バランスについては、隣接の複合施設の管理栄養士より、アドバイスを受けている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方には声掛けを行い、できない方には、その方に応じた介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意の訴えのない方にも、時間を見てトイレ誘導を行うことにより、トイレでの排泄ができるように支援している。また、羞恥心にも配慮した、さりげない介助を心がけている。	排泄チェック表を記入しており、おむつを使用しているご利用者にはおむつの量を減らし、どのようにはずしてゆくか取り組みをおこなっています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行い、体を動かすようにしている。毎日、牛乳を飲んでいただき、十分な水分摂取をしていただけるよう声かけを行っている。下剤を使用している方には、医師や看護師に相談し、使用量、頻度を相談している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概ね週2回のペースで入浴していただいている。ただし、本人が入浴したくない時には、別の時間帯や、別の日に入浴している。また、希望により、入浴の順番を決めることもある。	ご利用者、職員ともに腰に負担の少ない機械浴を使用し、毎回、湯を洗い流しています。ご利用者へ入浴時間が一目で分かるようにホールに入浴順が掲げられています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活のペースで、午睡されている。夜間、寝付けない方には、訴えを傾聴し、安心して休んでいただけるような、声掛けを行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用や用法について記載された情報を、個別のファイルに綴じ、職員がいつでも確認できるようにしている。服薬時は、職員が必ず名前を確認し、ご本人に手渡し、服用したことを確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや畑仕事など、ご利用者の経験を活かしていただけるようにしている。外出や地域の行事の参加等をご利用者の希望を聞きながら行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物に出かけている。歩行困難な方にも、車椅子での外出をいただいている。また、希望に応じ、ご家族の協力を得ながら、外出されることもある。	ご利用者の希望に応じて行きたいところへ行っています。毎月車での外出の機会があり、ご利用者の気分転換となっています。外出時のマニュアルも作成されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望により、小額の現金を持っておられる方もいる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、電話を使用している。また、字が書ける方には手紙を書いていただけのような機会を作り、支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やリビングの飾りは、季節を感じていただけるような物を考え、職員とご利用者が一緒に製作してる。	廊下にはたくさんの外出時での笑顔の写真正が飾られてあったり、ホールには飾りが施されており、居心地よく過ごせる工夫がされています。居室の前には造花が飾られておりお部屋への目印となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファを置き、一人で過ごしたり、仲の良いご利用者同士がくつろげる場所を作っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス等、ご自宅で使用されていた、馴染みの物を使用している。居室には写真や植物等を置き、居心地よく過ごしていただけるようにしている。	日当たりも良く、馴染みの品々が飾られています。ご利用者もそれぞれ工夫されて、安心して過ごせる空間になっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	物の配置に配慮し、安全に過ごしていただけるような環境整備を行っている。また、必要に応じ、目印をつけて、ご利用者が分かりやすいように工夫している。		